

< あなたの治療について >

婦人科-Pembrolizumab-子宮体-q6w

今回の治療は、Pembrolizumab 療法という治療法で、キイトルーダ（Pembro）という注射薬を使用して行います。キイトルーダは、腫瘍の増殖を抑えるお薬です。

◎ 治療全体の流れ

今回の化学療法は6週間が1コースとなっています。各コースの1日目に点滴を行います。この治療を6週間（42日間）ごとに繰り返します。副作用が強く出たり、体調がすぐれない場合は回復するまで、治療を延期したり、お薬の量を減らしたりすることがあります。

◎ 1コース分の治療スケジュール

順序	薬剤商品名 (薬の作用)	投与	1日目	2～42日目
①	キイトルーダ (抗がん剤) 400mg/body	点滴 約30分		お休み

★ 点滴中や点滴後に、注射部位が痛い、赤くなってはれる、水ぶくれができる、ただれるなどの症状に気づいたときは、すぐに申し出てください。また点滴中は、腕を動かすことにより針がずれ、点滴漏れが生ずることがありますので気をつけて下さい。

◎特徴的な副作用について

キイトルーダにおける

* 免疫チェックポイント阻害剤における副作用は、別添の資料を参照して下さい。

* 上記症状が現れたときは、必ず医師・看護師・薬剤師にご相談下さい。

◎薬品毎の副作用について（添付文書における重大な副作用を製薬会社作成「薬のしおり」などから抜粋）
まれな副作用ですが、このような症状が現れた際には医師・薬剤師・看護師へご相談下さい。

【キイトルーダ】

〔間質性肺疾患〕発熱、から咳、息苦しい

〔大腸炎、小腸炎、重度の下痢〕嘔吐（おうと）、腹痛、下痢、泥状の便

〔中毒性表皮壊死融解症、皮膚粘膜眼症候群、多形紅斑〕まぶたや眼の充血、唇や口内のただれ、発疹、みずぶくれ、発熱

〔類天疱瘡〕かゆみの激しい水疱

〔神経障害〕運動のまひ、手足のしびれ、指先のしびれ、歩行困難

〔劇症肝炎、肝不全、肝機能障害、肝炎、硬化性胆管炎〕食欲不振、吐き気、嘔吐、からだがだるい、白目や皮膚が黄色くなる、かゆみ、発熱、右上腹部の痛み

〔甲状腺機能障害〕汗をかきやすい、胸がドキドキする、からだがだるい、寒がりになる

〔下垂体機能障害〕からだがだるい、頭がぼーっとしたり意識がなくなったりする、血圧低下

〔副腎機能障害〕からだがだるい、意識がうすれる、低血圧

〔1 型糖尿病〕からだがだるい、のどの渇き、尿の量が増える、意識の低下

〔腎障害〕むくみ、頭痛、尿量が減る

〔膵炎〕吐き気、嘔吐、胃・おなかの激しい痛み、背中痛み

〔筋炎、横紋筋融解症〕脱力感、筋肉の痛み、息苦しい、赤褐色尿

〔重症筋無力症〕まぶたが重い、上まぶたが下がる、物がだぶって見える、筋肉の疲労感

〔心筋炎〕からだがだるい、発熱、吐き気、息苦しい

〔脳炎、髄膜炎〕発熱、頭痛、意識の低下

〔重篤な血液障害〕貧血症状、発熱、出血傾向

〔血球貪食症候群〕発熱、左上腹部の圧迫感や痛み、リンパ節のはれ

〔結核〕長引く微熱・咳、からだがだるい、体重減少

〔インフュージョン・リアクション〕呼吸困難、意識障害、まぶた・唇・舌のはれ

〔ぶどう膜炎〕目のかすみ、視力の低下、蚊が眼の前を飛んでいるように見える、まぶしい、眼の痛み、眼の充血

◎ 上記のほかにも副作用が現れることがあります。

他にもからだの異常を感じたら、主治医や薬剤師、看護師に相談してください。